

## 2024 年度放射線授業事例コンテスト 放射線授業事例

タイトル	持続可能な放射線教育をめざして ～ 学級担任との Team Teaching 放射線授業を通して ～
対象（校種・学年）	小学校 1・2・3・4・5・6 年
教科・領域・単元	学級活動 ・ 総合的な学習の時間
ねらい	文部科学省放射線副読本問題練習により、学年に応じた基礎的な放射線内容を理解させたので、講師による放射線出前授業から、学級担任との Team-Teaching 授業へ Step Up させ、学級担任の放射線授業力を向上させる。
授業での実践	<input type="checkbox"/> 実施済み <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
キーワード	事前事後アンケート、Team-Teaching 授業、担任主導のサポート体制
内 容	<p>2011 年 3 月に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴う福島第一原子力発電所の事故で、福島県内外な甚大な被害から早 13 年を過ぎた。復興・再生事業が進むと同時にライフラインも整備され、以前のような生活できる環境が順次整いつつある。しかし、故郷に帰還できた日が遅い地域ほど、故郷に戻って生活している人は少なく、大熊町や双葉町などは、帰還率が 1 割程度に他ならない。また、福島県に対する放射能被ばくの偏見は根強く、今でも福島県産農産物や福島県沖合漁業収穫物への規制が、特に海外で続いている。</p> <p>このような状況の中、福島県内外の人々に、特に青少年を対象に放射線を正しく理解し、放射線被ばくへの偏見を少なくするために、放射線出前授業が約 13 年以上も継続して展開されてきた。そして、放射線出前授業の課題も明確になってきた。それは、放射線授業を講師に全て任せきりになっており、出前授業後子どもたちの放射線学習の意欲を高めていないことである。その主な原因として、①児童・生徒に教える前に基本的な放射線の内容を十分に理解していない。また、②放射線授業を展開する方法や教材が揃わず困っている。これでは、学級担任による放射線教育の継続的な実践は望めない。</p> <p>そこで、この状況を打開するため、「持続可能な放射線教育」をめざし、昨年度より、次の方策を考え、地元本宮まゆみ小学校で実践を積み重ねてきた。</p> <p>①『文部科学省出版放射線副読本』の重要な放射線内容を明確に捉え、効率的に覚えられるような「放射線副読本練習問題」を作成する。</p> <p>②放射線出前授業の講師による授業の進め方を「見て・学ぶ機会」を増やす。文部科学省委託事業の支援もいただく中、放射線出前授業事前事後アンケートから、次の成果・課題・要望が明確となった。</p> <p>(1) 成果として－1 日 10 分朝の時間を活用して「放射線副読本練習問題」を解き、基礎的な放射線内容を確実に理解していただいた。</p> <p>(2) 課題として－「放射線副読本練習問題」を活用する理由や方法が十分行きわたらなかった。</p> <p>(3) 要望として－従来の講師による放射線出前授業を希望する先生が多い中、Team-Teaching 授業、ならびに放射線器材の提供のもと、学級担任主導の放射線授業を希望する先生もいる。</p> <p>そこで、①Team-Teaching 授業を取り入れた学習指導案を作成する。次に②放射線出前授業を実施する前に、放射線授業事前研修会を開催して、福島県の復興のあゆみや放射線教育の必要性を確認するとともに、「放射線副読本練習問題」の活用方法を丁寧に説明する。さらには、③学級担任との事前打合せの場を設け、学習指導案を基にしたきめ細かな指導方法を確認し合うとともに Team-Teaching 授業および学級担任主導の放射線授業を希望する学級担任には授業しやすいように具体的なサポート項目を明確にして準備・支援する。</p>
参考文献	文部科学省発行「小学生のための放射線副読本」 福島県教育委員会発行「平成 27 年度放射線に関する指導資料 [第 5 班]」